

横浜市関係

- 1 教育文化センターで横浜市民の翼訪中国（昭和五十年十一月）報告写真展
- 4 米軍鶴見貯油施設の立入調査を認める日米合同委の正式文書到着
- 5 市会第六委研究会で都市開発局長、三菱重工への金沢埋立地売却面積が五十六ヘクタールから三十三ヘクタールに減少することを、また港湾局長は、金沢木材センター製材加工用地二月中旬募集を表明。▽市庁舎貴賓室で七日出発の「横浜アラブ経済文化交流使節団」結団式。▽横浜、五十八日ぶりに降雨
- 6 市民に募集した都心プロムナードのタイトル絵柄の採用作品三十二点を決定
- 13 市長、五十一年度予算案、総額六千六百六十五億七千四百万円（一般会計三千二百二十八億八千五百万円、特別会計四千五百五十五億六千五百〇〇万円、公営企業会計二千八百一十一億二千四百万円）前年度比伸率十六・一％を発表。▽市会第二委員会研究会で民生局、保育料を平均六十七・三％アップの応能方式導入の改正案を説明
- 19 米軍鶴見貯油施設立入の米軍回答内容は、立入のみで実際の検査ができないため、二十日の検査取りやめを通告
- 21 横浜駅東口開発公社出損者会議で一桑幸夫前副理事長を新理事長に選任

自治体・国・社会

- 2 自治省、四十九年度市町村の決算概要で赤字団体百五十七と前年より三十六増加。3 五十一年度地方財政計画、二十五兆二千五百九十五億円と前年度比十七・二％増。▽日米合同委で米軍鶴見貯油施設へ横浜市の入入を認める回答。4 米上院外交委多国籍企業分科委員会、ロッキード航空機会社が日本の石翼・児玉督士夫、丸紅に三十億円の航空機売り込み資金支払を公表。6 三木首相ロッキード事件の究明約す。▽神奈川県、五十一年度に約六百人の職員増抑制を明らかにする。▽国有財産審議会、米軍から返還される基地跡地の三分の一を地元自治体へ払下げる三分割案打出す。
- 8 兵庫県高砂市で入浜権全国大会終る。9* 法務省、戸籍の閲覧制限など改正案まとめる。
- 10 神奈川県、総額六千二百九十一億六千万円の五十一年度予算案発表。11 昭和四十九年台風16号「多摩川水害訴訟原告団」国へ総額四億二千二百万円の賠償請求。12 神奈川県教育長、「主任制」三月実施見送りを表明。14* 箱根町、緑保全のため五十一年度より山林の固定資産税半減措置の方針。16 衆院予

横浜市関係

- 23 市会決算特別委員会は、公営企業会計を除く四十九年度各会計決算を認定
- 24 戸塚区民協議会「東戸塚駅設置問題分科会」が開かれ役員選出など行なう
- 26 五十一年度予算市会始まる
- 28 財団法人大佛次郎記念会設立総会がホテル・ニューグランドで開かれ、理事に飛鳥田市長を選任。▽市会第一委員会で環境事業局長、南戸塚工場、一月十五日の火災損害は約六億円と報告
- 2 市会、五十一年度一般会計補正予算可決後、五十一年度予算案の各党代表質問
- 3 市会予算特別委員会は、田口良作委員長を選任、局別審査日程を決定。▽市会本会議で教育委員長、「主任制実施を前提」にしなければならぬが「主任の地位、範囲、選任方法など混乱のないよう措置したい」と答えた
- 5 市会予算特別委で、小泉助役、六郷衛生局長、南部地域の総合病院建設に關し、五十一年度前半までメドをつけ、建設協議会を設け計画をまとめたこと答弁
- 8 市会予算特別委で公害対策局長、「出入船舶の排煙」規制を国へ働きかける、また保土谷化学保土ヶ谷工場跡地の無機水銀問題について「早目に公表した方がよかったと反省している」と答えた
- 13 市会予算特別委で消防局長、米軍鶴

自治体・国・社会

- 算委「ロッキード事件」の証人喚問。19 川崎市総額三千四百九億千万円の五十一年度予算案を発表。▽首都圏革新五首長懇談会がロッキード事件で「事実解明に全力を」と共同声明。
- 23 藤沢市長選で葉山峻氏が再選。24 自治省、五十一、五十五年中期地方財政展望で五十三年度まで赤字。26 東京都、高速道路、通行税。具体的に検討開始。
- 2 北海道庁爆破で二人死亡、八十五人負傷。4 首都圏革新五首長「ロッキード事件の疑惑が晴れるまで」丸紅と契約しないと声明。5 高木文雄国鉄新総裁が就任。▽一九七四年版国連人口統計年鑑による世界人口三十八億九千万人、国別順位で日本六位。▽永井文相衆院文教委で優待問題調査を表明。
- 6 横浜国大付属鎌倉中で内申書。底上げ。判明。7 ロッキード事件の児玉督士夫脱税で告発。▽地方政界白書で地方自治体の首長に脱税化傾向。
- 8 長崎県知事、県会で原子力船「むつ」の母港化断ると表明。
- 10 神奈川県会で長洲知事、東京湾横断道計画に消極的意向を表明。▽中央公害対策審議会費

4月

見貯油施設で災害が起これば最悪の場合、付近住宅の延焼もありうると答弁
 15 市会予算特別委で企画調整局長、六大事業や三事業について、「遅れているのは事実だが、都市の骨格づくりなので局部局部で関係住民の納得のいく線を出しながら強力に推進する」と答弁
 17 市会運営委で市長が、保土谷化学工業工場跡地の水銀汚染問題で「行政判断による安全対策が先行しすぎたきらいがあり、公開時期に問題があった」と釈明。
 ▽市会本会議は、議員提案で「ロッキード事件の真相究明に関する決議」を可決
 24 市長、市内米軍基地大気汚染問題で外相、環境庁長官などに改善措置要請
 26 市会、総額六千六百六十五億七千三百九十三万円の新年度予算と関連議案を可決、閉会
 31 三菱横浜造船所の金沢埋立地への移転時期を昭和五十三年三月までに決定し跡地周辺の開発に協力することなど移転協定及び土地売買予約契約を正式調印
 1 助川信彦公害研究所長など一等級二十一人と二等級、三等級を含む職員八十人の人事異動を発令。▽暫定的な「育児休業取扱要綱」を実施。▽市会第七委員会、地下鉄三号線の公聴会で、地域代表者、陳情者など十七人の意見聴取
 3 旭区民会議「地域会議」新設。▽県社会福祉会館で財団法人大佛次郎記念会

用負担部会、O E C D汚染者負担の原則より拡大する答申提出
 11 人事院、主任手当月額五千万円の教員給与の改善など勧告。
 ▽藤沢市議会常任委員会「ロッキード事件の真相究明を求める」市議会の決議を要請する請願」全会一致で採択。13 住宅地地審議会は、第三期住宅五カ年計画で八百六十万戸建設を建設相に答申。15 厚生省、風シシ全国的に流行と発表。18 環境庁、公害補償施行令を改正し硫酸化物物排出企業の負担を約二倍引上げ打出す。20 新政治資金規制法施行で、幽霊団体、半減。
 22 伝染病予防調査会、「今後の予防接種のあり方」など任意制移行への答申を厚相に提出。
 23 ロッキード事件の児玉邸に小型飛行機突入。30 神奈川県都市計画地方審議会、川崎市の流通センター廃止などを了承。
 31 五十一年度暫定予算が参院で可決成立。
 1* 神奈川県営住宅に三万四千円貨出現。▽沢田梯新公取委員長就任。2 六六港湾都市協議会と日本船主協会の二回目入港料新設問題、船主側からトシ九十四銭の逆提案で難航。
 3 建設省第四次下水道五カ年計画で普及率四十%を目標。▽ウイソルン英首相の中途退任に伴

設立記念講演会、市長ほかが講演
 6 横浜市町内会連合会の代表と市長、神奈川県知事が初の懇談会
 8 市会第七委員会、一日の地下鉄三号線の聴聞会の意見を検討したが結論でず
 12 騒音被害者の会横浜地区代表七人が「近隣騒音防止条例制度」の制定を市長に要請したが、「人を規制するような条例化を行う考えはない」と答えた
 13 飛鳥田市長と伊藤川崎市長は、十五日からイタリヤ・ミラノで開かれる世界主要都市市長会議出席のため羽田を出発
 14 米軍鶴見貯油施設のエリアIとIIを結ぶ市道の地下埋設送油管の改善を横浜防衛施設局あて申し入れた
 17 三、四等級職員四百四十七人が異動
 18 二十四代目ミス横浜、五名が決まる
 20 教育委員会、五月から学校給食費を月額千九百円から二千四百円に引き上げること明らかにした。▽市労連、春闘共闘委の統一行動で二時間の「スト」
 22 米海軍横須賀基地司令官などが市と県の大気汚染監視センターを勉強に来庁
 24 米軍鶴見貯油施設の油送管改善問題で横浜防衛施設局と協議
 26 四月一日の人口二百六十二万八千九百七十八、世帯七十九万七千二百七十二
 28 旭区民会議、新委員百六十人選出
 29 市職員六人、北朝鮮・平壤市へ第三回アジア卓球大会見学と友好訪問出発

以後任にキャラハン氏。▽北京天安門広場で周恩来首相の追悼花輪撤去問題で群衆騒ぐ。9 米海軍横須賀基地で三月にガソリン漏れがあり社会党代議士が市長に立入り調査申し入れ。10 日本共産党宮本委員長、記者会見の席上「プロレタリア執権」を綱領から削除する方針を表明。
 ▽神田・共立講堂で婦人参政権行使三十周年記念大会。13 川崎港水江運河で産業廃棄物投棄船爆発。14 最高裁、千葉一区の衆院定数不均衡で違憲判決。
 16 東京都知事、環境評価(環境アセスメント)法案を批判し都独自で条例制定を示唆。18 東京都公害研究所、今後の理想の経済成長実質四%と発表。17 総理府、昭和五十年の国勢調査で生産人口が六七・八%と戦後初の減少と発表。▽福島県知事選で今より無所属立候補した木村守江氏四選。19 寒川町長選で高橋誠氏当選。▽日本住宅公団、空家家賃を平均二・六倍(一万八千四百円)に引上げを発表。
 20 春闘で交通ゼネスト突入。
 23 政府、狂乱物価「結核」法措置取ることを決定。27 全日外知事会、大蔵省に大規模基地跡地「三分割方式案」反対の要請書を提出。28 第十六次地方制度調査会起草案、地方議会議員の半数改選導入など取りまとめの作業に入る。

資料は「広報よこはま」によったほか、主として神奈川新聞を参考にした。* 印は日付不確定のため新聞発行日。